

有 乃 無 乃 (六卷)

脚色者 帝キキ時代映畫  
監督者 惡麗之助氏  
撮影者 富澤進郎氏  
谷口 禎氏

主要役割

金子満之進 片岡 童十郎氏  
妻 厚枝 大月 光子嬢  
伴 秀之丞 中村 太郎氏  
脇 村吉彌 瀬川 路三郎氏  
弟 英三郎 尾上 紋十郎氏  
獵師茂作 市川好右衛門氏  
娘 お美彌 津守 玉枝嬢  
仇を討つ若侍 嵐 繁代氏  
その仇敵の侍 市川 荒十郎氏  
傷ついた侍 尾上 紋壽氏  
(略筋省略)

帝キキに入社以來比較的優れた内容を持つた脚本を提供して我等を少しも喜ばせて呉れた。

悪麗之助氏の脚色に成るものではあるが此映畫は如何にも好意が持てない。最初のタイトルに依つて作者の作意は如何に察せられるが展開する讀りが餘りに奇矯と過然の銖合せでこれ上げなる爲にそこに大なる矛盾を生み眞剣に見られない様な感じを抱かした。富澤進郎氏の監督が恐らく作者の狙つた所を完全に諒解しきらないでたためこんな曖昧な映畫と化して終つたのではないかと思はれる。俳優も誰が主役か解らない譯りであらから總てに榮はない。後半は一寸「恩讐の彼方へ」の眞似の横であつた「有乃無及」と云ふ題名も考へ様に依つては滑稽である位に徹底せぬ。山本 結葉  
興行價値——餘り複雑して居るので頭の悪い御客にはよく解るまい。云つて智識階級には又向かないから興行價値も香しくはあるまいと思ふ。  
(四月九日 遊樂館封切)